

「森里川海をつなぎ、支えていくために（提言）」の概要

平成 28 年 9 月

1. 「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトとは

自然資源を象徴する「森」「里」「川」「海」を保全・再生してつなげること、また、それぞれに関わる人をつなげること、そして、都市部に住む人たちも含めて国民全体で「森里川海」の保全とそれに関わる人たちを支えることを目指して、平成 26 年 12 月にプロジェクトを立ち上げ。

現在、3,230 名の個人・企業・団体の方が賛同（平成 28 年 9 月時点）。

2. 提言の位置づけ

中間とりまとめに向けた勉強会、全国リレーフォーラムの議論等を踏まえ、講師や参加者、環境省プロジェクトチーム員によるグループで執筆。

<経緯>

平成 26 年 12 月	プロジェクト立ち上げ、第 1 回勉強会
平成 27 年 1 月～6 月	第 2～7 回勉強会、公開シンポジウム等
平成 27 年 6 月	中間とりまとめの公表
平成 27 年 10 月～平成 28 年 2 月	全国リレーフォーラム（約 50 箇所）
平成 28 年 5 月	中間とりまとめの改訂案の公表
平成 28 年 5 月～6 月	改訂案への意見募集
平成 28 年 7 月	「つなげよう、支えよう森里川海」推進志民全国大会 において意見交換
平成 28 年 9 月	本提言の公表

3. 今後の展開

本提言のもと、地域プログラムのモデルとなるよう、全国 10 箇所を実証地域として選定し、多様な主体によるプラットフォームづくり、自立のための経済的仕組みづくり等を進めるとともに、その効果手法の検討を行う。

また、全国プログラムとして、ウェブやネットワークによる情報発信のほか、各世代の目線にあわせた普及啓発や教材づくりを行うことで、ライフスタイルの変革や自然の中で遊ぶ子どもの復活を進めていく。

4. 提言の概要

前文 今なぜこのプロジェクトを進めるのか、何をを目指すのか

(1) 現状と課題

- ・ 豊かな恵み
自然の恵み、それを核とした社会のつながり、人の心など
- ・ 森里川海やつながりの危機と課題

(2) 環境・経済・社会の統合的アプローチ

- ・ 森里川海で拓く成熟した社会づくり
再生可能エネルギーの活用で地域経済を回す、個性ある風土づくりで
交流人口を増加、安心・安全な衣食住、少量多品種・高付加価値化の一
次産品づくり、生態系を活用した防災・減災
- ・ 各地で行われている多様な活動

(3) 目標

以下の2つを提示

- ・ 森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出す
- ・ 一人一人が、森里川海の恵みを支える社会をつくる

(4) 基本原則

- ・ 踏まえるべき視点や基本的考え方
人口減少社会・高齢化を逆手にとる、地方創生への貢献、国民全体で
支える、縦割り解消、関係者間・地域間の連携、バックキャスティング・
アプローチなど

(5) 具体的な取組のアイデア

① 地域の草の根の取組

国民一人一人がその成果を実感できるよう、わかりやすい目標を掲げた具
体的なプログラムとして、以下の8つのプログラム（地域プログラム）を提
案。また、これらのプログラムが、経済・社会・自然に及ぼす効果の評価を
行うための手法の開発等も重要。

- 森林のメタボ解消、健全化プログラム
- 生態系を活用したしなやかな災害対策プログラム
- 「江戸前」など地域産食材再生にも貢献する豊かな水循環形成プログラム
- トキやコウノトリなどが舞う国土づくりプログラム
- 美しい日本の風景再生プログラム
- 森里川海からの産業創造プログラム
- シカなどの鳥獣や外来生物から国土・国民生活を守るプログラム

■ 自然資本を活かした健康で心豊かな社会づくりプログラム

② 実現に向けた仕組みづくり

■ ボトムアップで取組を進めるための仕組み

- ・ 幅広い関係者で議論する地域ごとの会議として「森里川海循環共生協議会」の設置を提案。ここで出された意見を国の方針や施策に反映させていく仕組みづくりを目指す。

■ 資金や労力を確保するための方策

- ・ 恵みを受ける全ての個人や企業が少額（一人1～2円程度など）を負担することを提案。
- ・ 仕組みとしては、例えば、地域プログラムに充てる基金として、個人・企業からの寄付、地域金融機関による社会的投資、クラウドファンクスなどを活用した「地域創造ファンド」が考えられる。

■ 市場メカニズムの活用

- ・ 環境に配慮された農林水産物の生産・流通の拡大、消費者と生産者による新たなビジネスモデルの共創など、持続的な経済活動の中で、森里川海の健全な手入れがなされる仕組みづくり
- ・ 企業のCSVの推進、金融機関による社会的責任投資、観光客等による利用者負担等の推進。

■ 人づくり

- ・ 現場で技術的助言を行ったり、各組織をつないだり、資金を確保したり、合意形成を進める人材の育成。
- ・ 既存の大学や農林水産系高校との連携。

③ ライフスタイルの変革

昔の暮らしに戻るのではなく、自然の循環を基盤とし、その恵みを自立的かつ持続的に享受できるライフスタイルを実現するため、以下の3つのプログラム（全国プログラム）を提案

■ 森里川海の中で遊ぶ子どもの復活プログラム

■ 森里川海とつながるライフスタイルへの変革プログラム

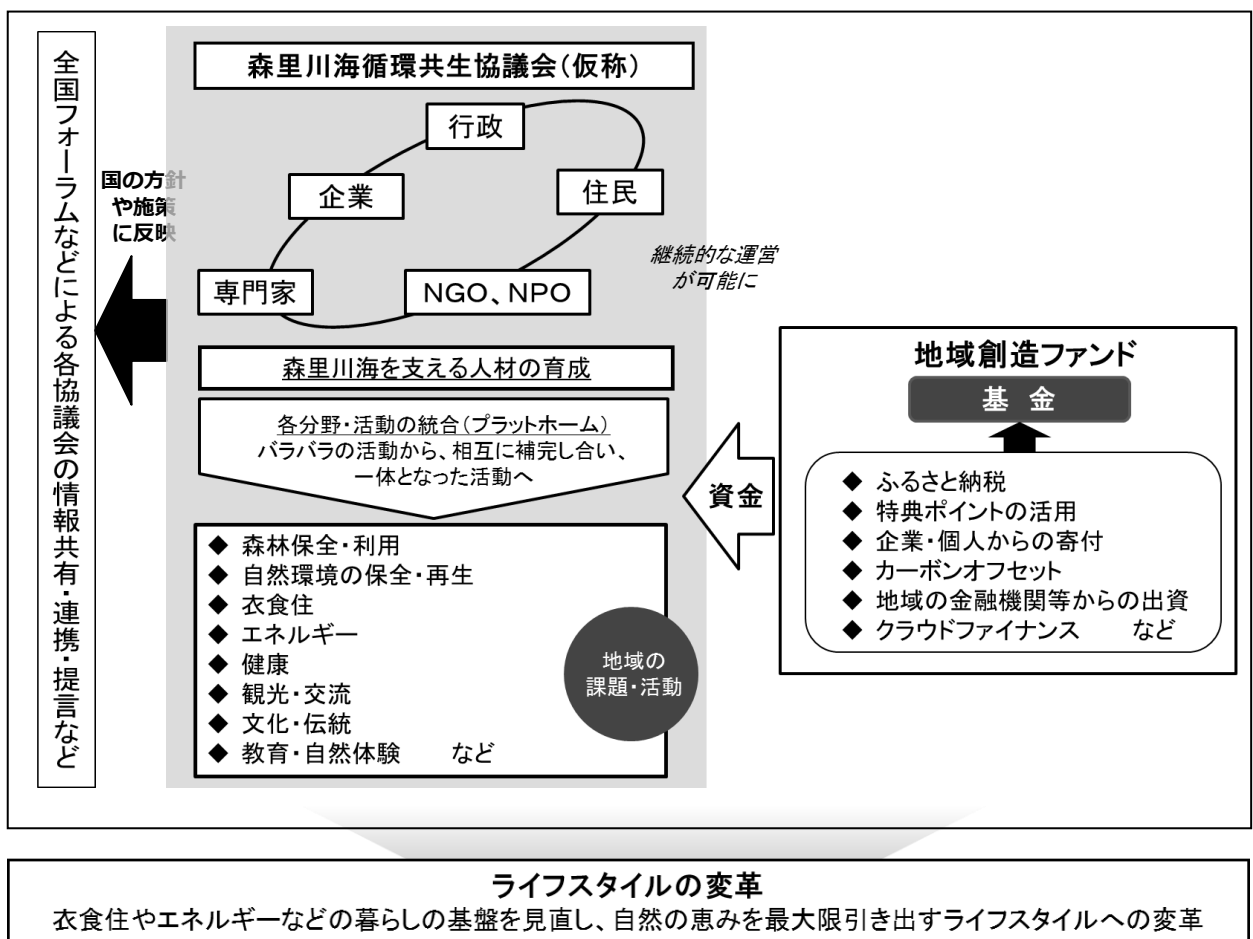
■ 森里川海の恵みの見える化プログラム

(6) 今後の進め方

- ・ 広く理解を得つつ関係者と協力して検討を行うことが必要

- ・ 資金を確保する仕組みについては、2～3年程度かけて議論し、全国に展開していけるモデル事例をつくる必要がある
- ・ 森里川海を支えることの必要性について、できる限り早期に国民的な合意を得ることが不可欠
- ・ ライフスタイルの変革に向けては、本プロジェクトに賛同いただいた各主体においても積極的に実施。

<実現する仕組みのイメージ図>



低炭素・資源循環・自然共生が同時に達成される真に持続可能な循環共生型の地域社会(環境・生命文明社会)を創造